2020社会情報学会（SSI）学会大会 WS5
コロナ禍における子どものメディア利用を考える

社会学的属性から見る
子どものメディア利用の特徴

2020/09/06

群馬大学社会情報学部
伊藤賢一 (ito_kenichi@gunma-u.ac.jp)

1. はじめに

- もともと子どものネット長時間利用による健康被害について調査する計画
- 3月から突然の休校、学校を通じた調査は難しいと思われたが、同時に、オンライン教育に対する注目高まる
- 小学生の保護者を対象としたweb調査を実施
- その結果、休校期間中のネット利用の進展や、長時間使用による疲労度増大を検出
- しかし分析していない項目 → 社会学的属性からみる特徴

2. 緊急保護者調査について

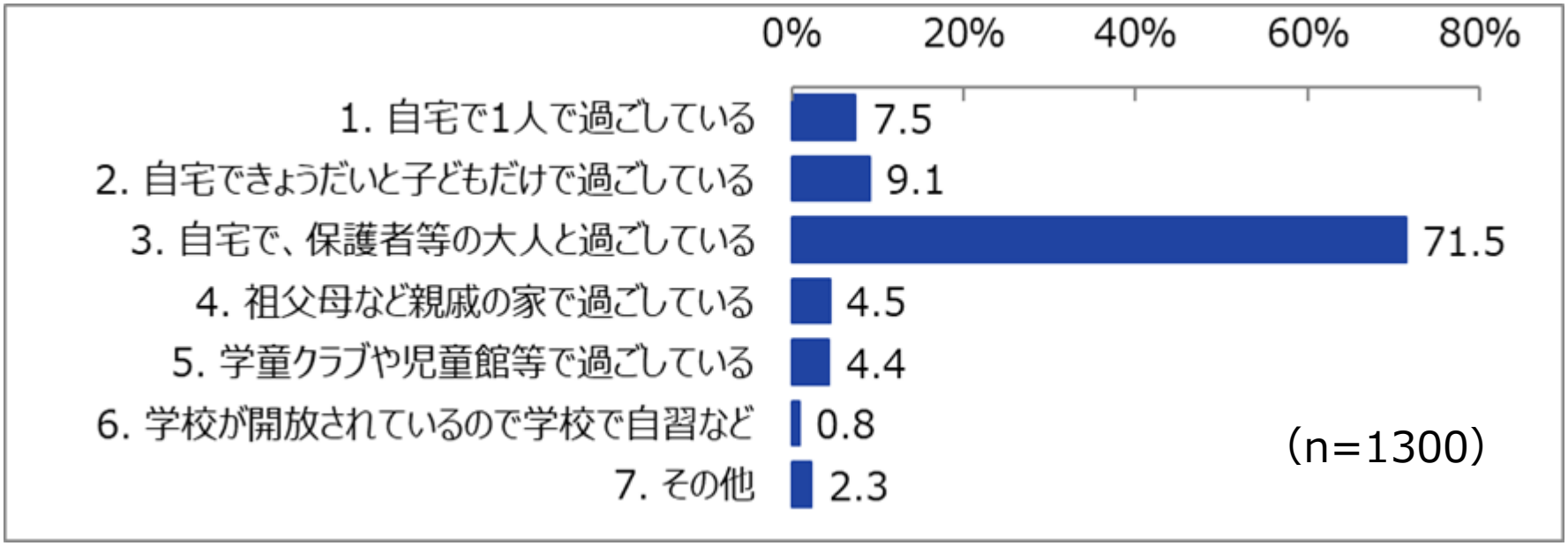
- 調査期間は2020年5月1日～7日、対象者は全国の小学生の保護者1,300名、実施は楽天インサイト株式会社に依頼
- 休校期間は地域によって異なるため「4月20日～25日」と期間を指定し、この間の子どもの様子を回想して答えてもらった
- 小学生の子どもが複数いる場合には、年齢が下の子どもについて回答を求めた
- 「できればお子さんと一緒に答えてください」と求めたが、あくまで保護者からの回答

2-1. 「速報」での特徴的な結果

- ① 休校中に35%の家庭で新たなネット機器
- ② 日中は保護者など大人と過ごしている小学生が7割、家族との会話が「増えた」は6割
- ③ 学校でオンライン指導が開始されたのは1割だが、55%が何らかのオンライン学習
- ④ オンライン学習が高い疲労を起こしている可能性（とくに、低学年での長時間では疲労度大）
- ⑤ 保護者は「学習のためのメディア接触」をメディア接触の増加とらえる意識が薄い

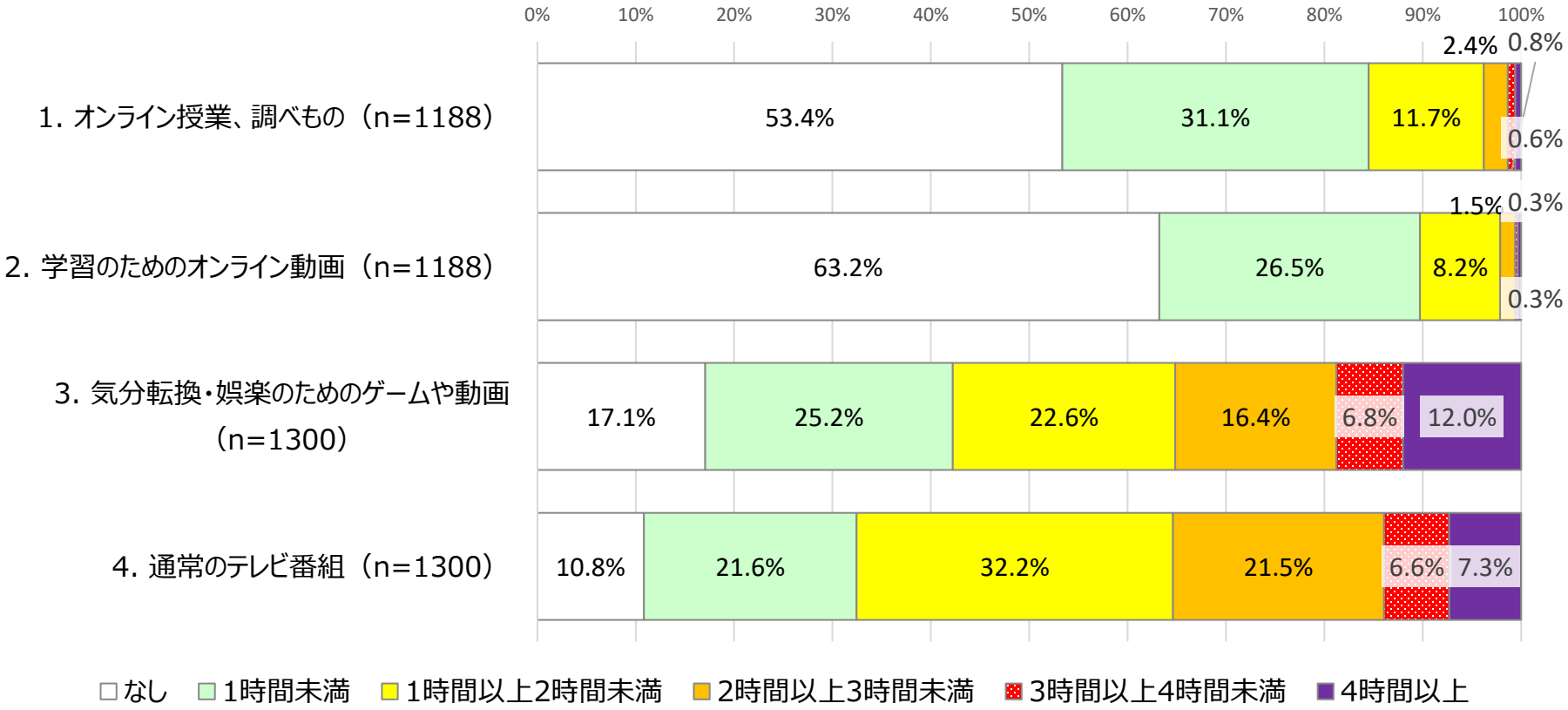
2-2. 子どもの日中の様子

Q4．休校期間中、お子さんは日中、主に次のどのような状態で過ごしているでしょうか。一番当てはまるもの一つを選んでください。



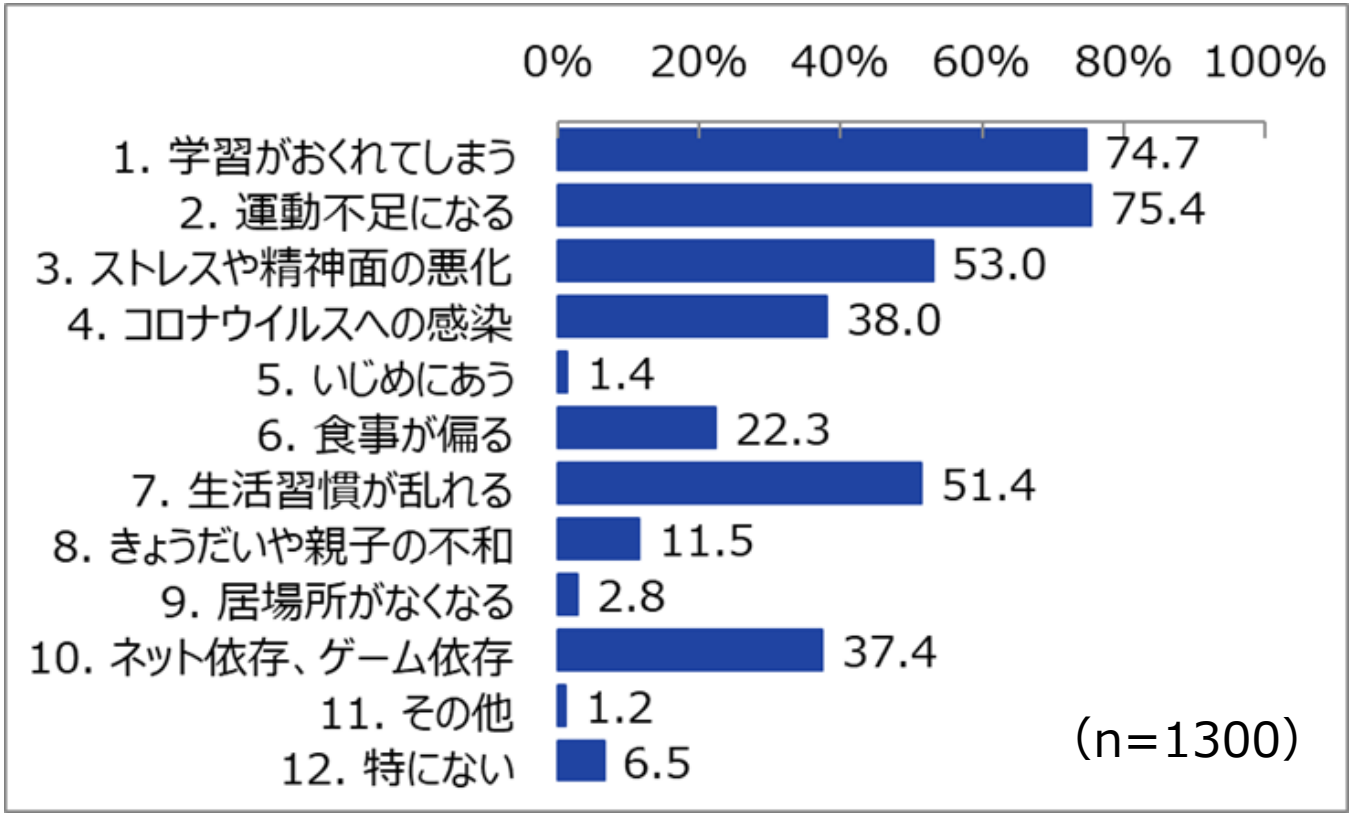
2-3. 目的別メディア利用時間

Q8．お子さんは次の目的で、一日あたりどのぐらいの時間メディアを利用していますか。それぞれ一つを選んでください。



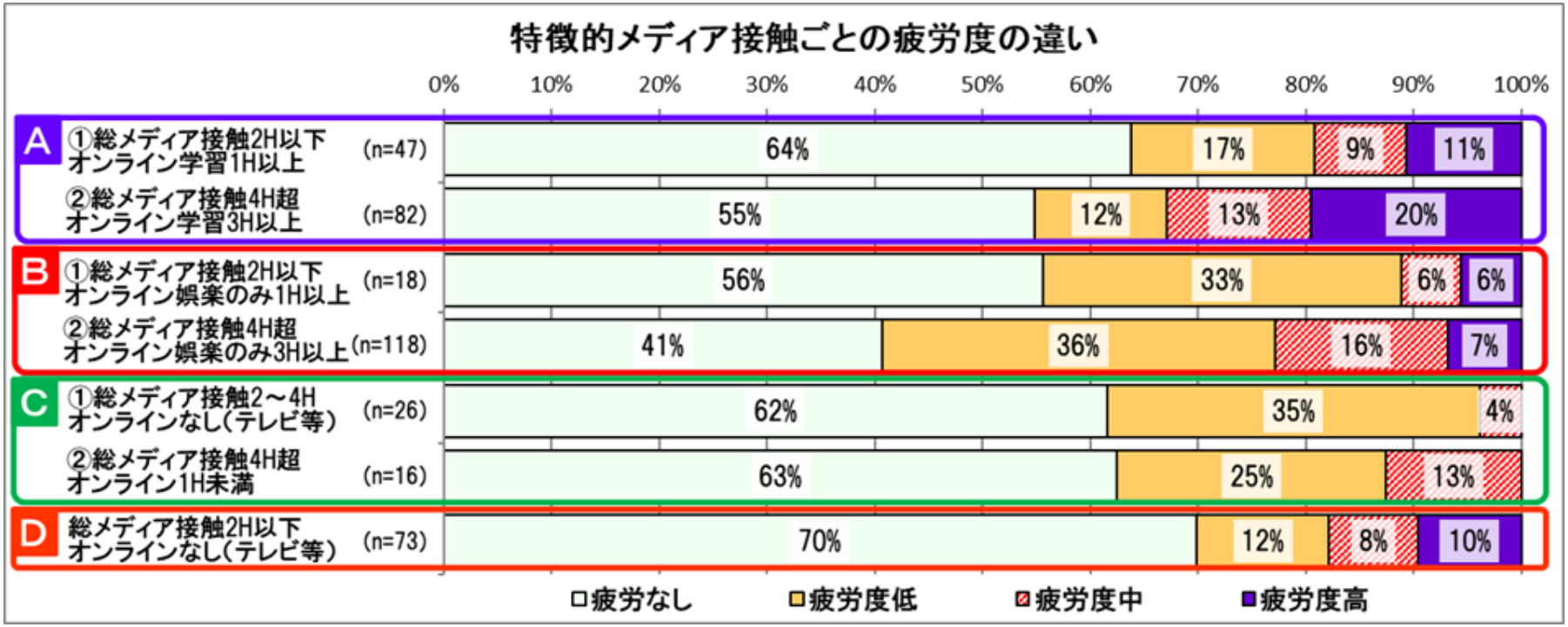
2-4. 困っていること・心配なこと

Q13. 休校となって特に困っていることや心配なことは何でしょうか。当てはまるものを全て選んでください。（いくつでも）



2-5. 特徴的メディア接触と疲労度

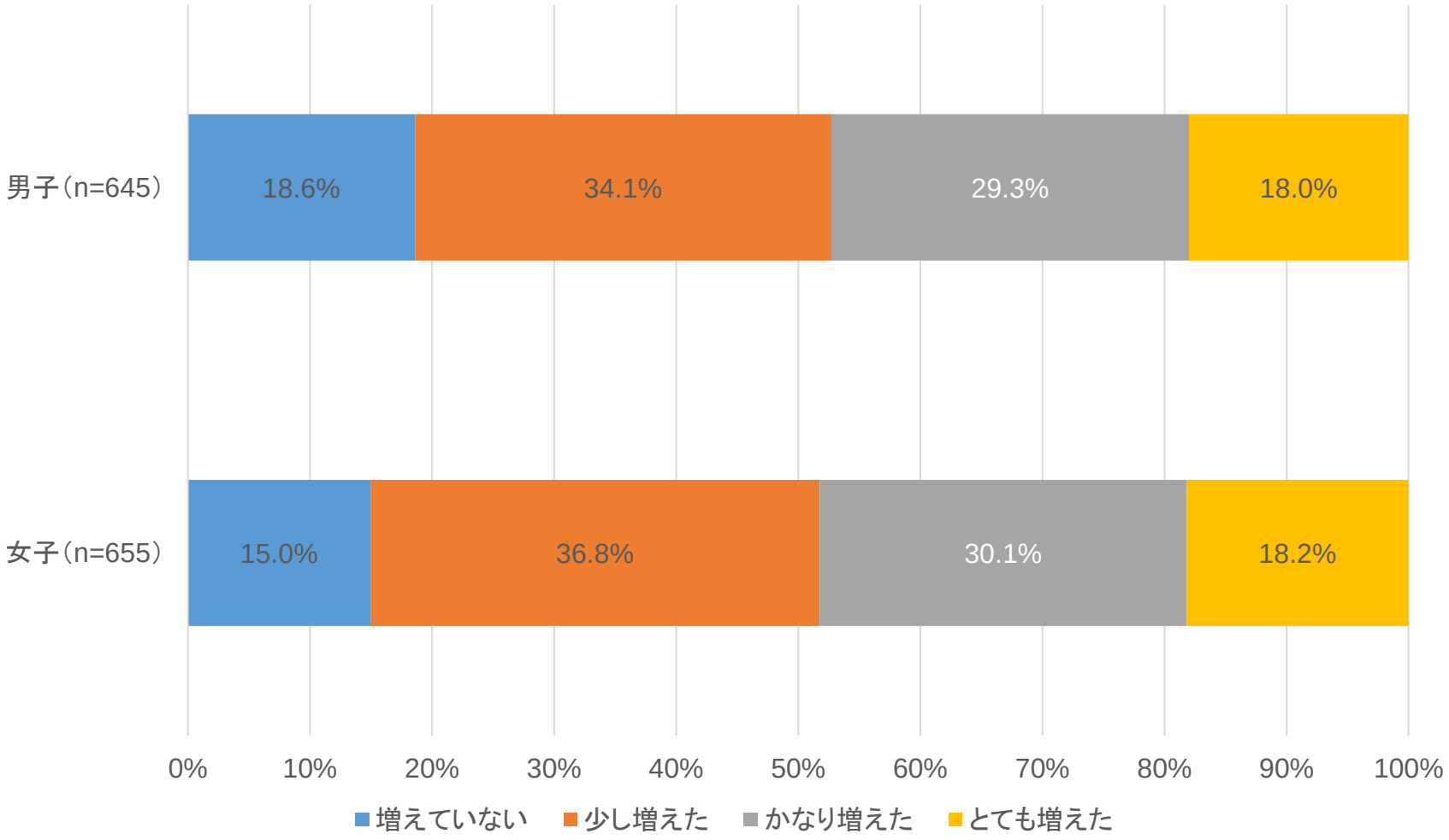
体調に関する14の質問項目の因子分析を行って２つの因子を抽出し、質問内容から因子1を「疲労傾向」、因子2を「不機嫌・活力低下」として、疲労度を算出



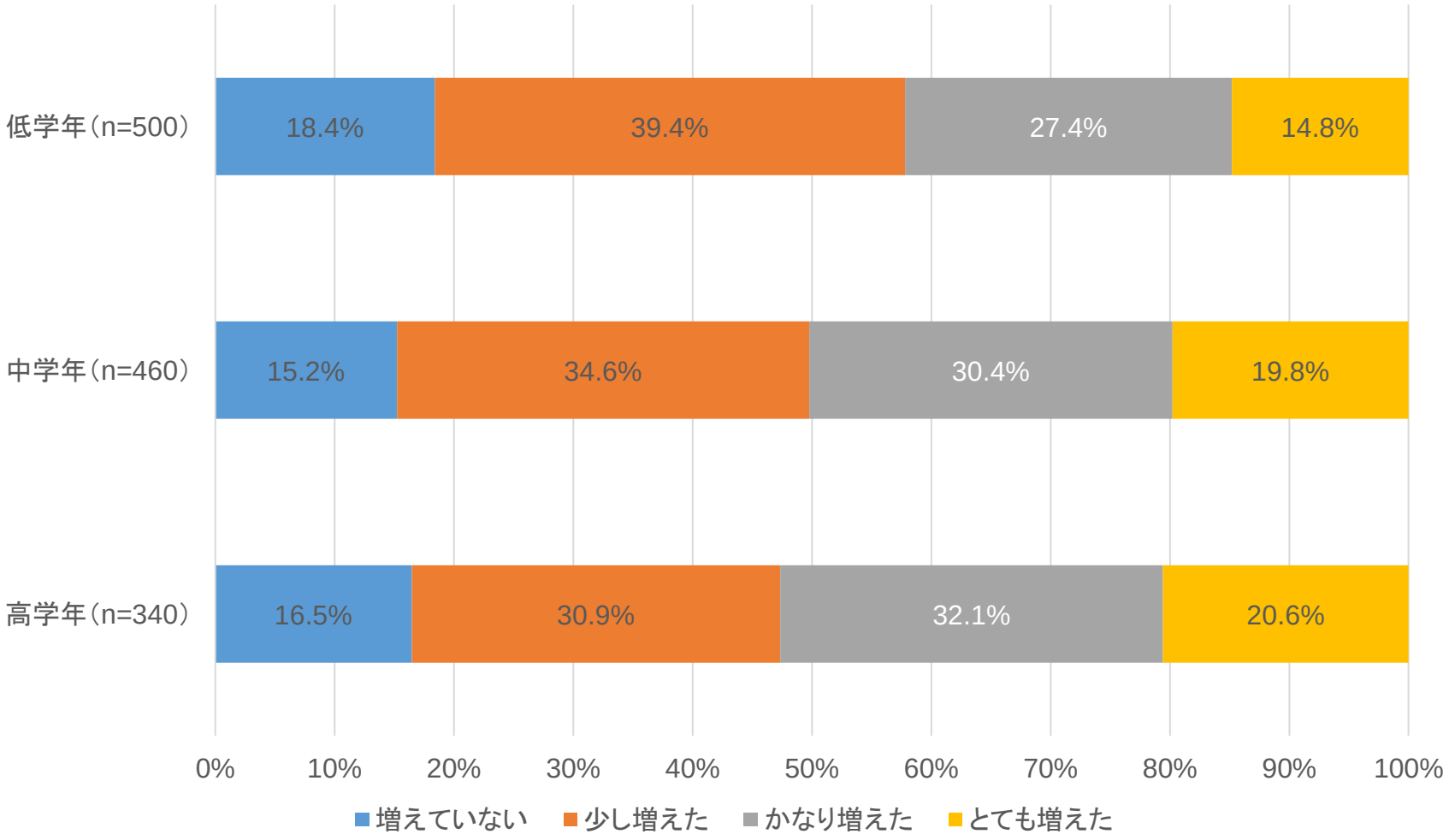
3. 社会学的属性からみるメディア利用

- 社会学的属性 → 性別、年齢（学年）、居住地等
- 詳しく尋ねているわけではないので（1）メディア接触の増加、（2）オンライン学習の時間、（3）オンライン娯楽の時間を検討してみる
- 性別に関しては、男子はゲーム、女子はSNSの利用時間が長くなりがち、と言われているが本調査ではコンテンツについては調べていない
- 年齢では、おそらく高学年の方が長時間利用に
- 地域による差はないと思われるが、中学入試の有無が学習時間に影響をあたえる可能性はある

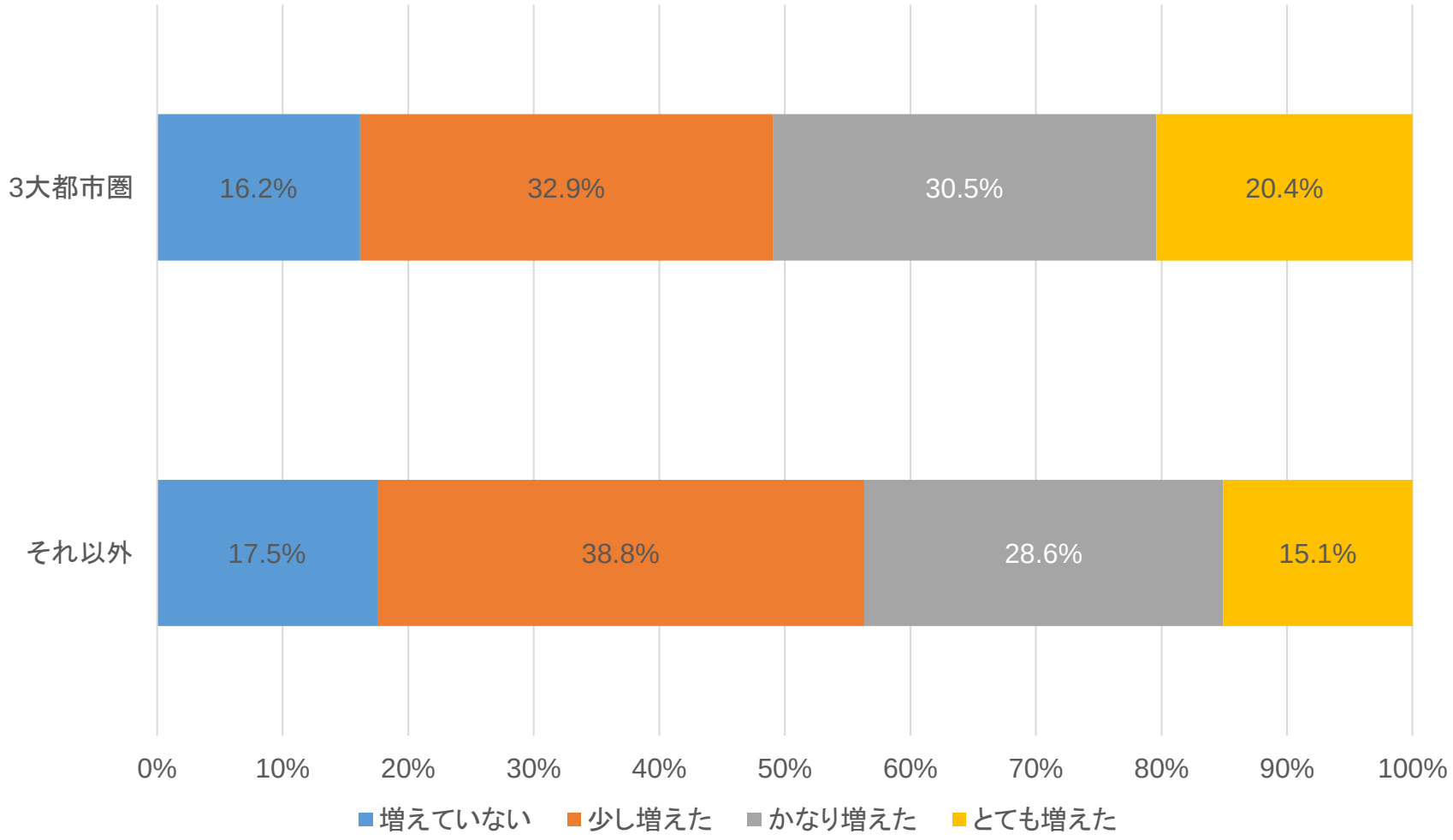
3-1-1.メディア接触の増加（性別）



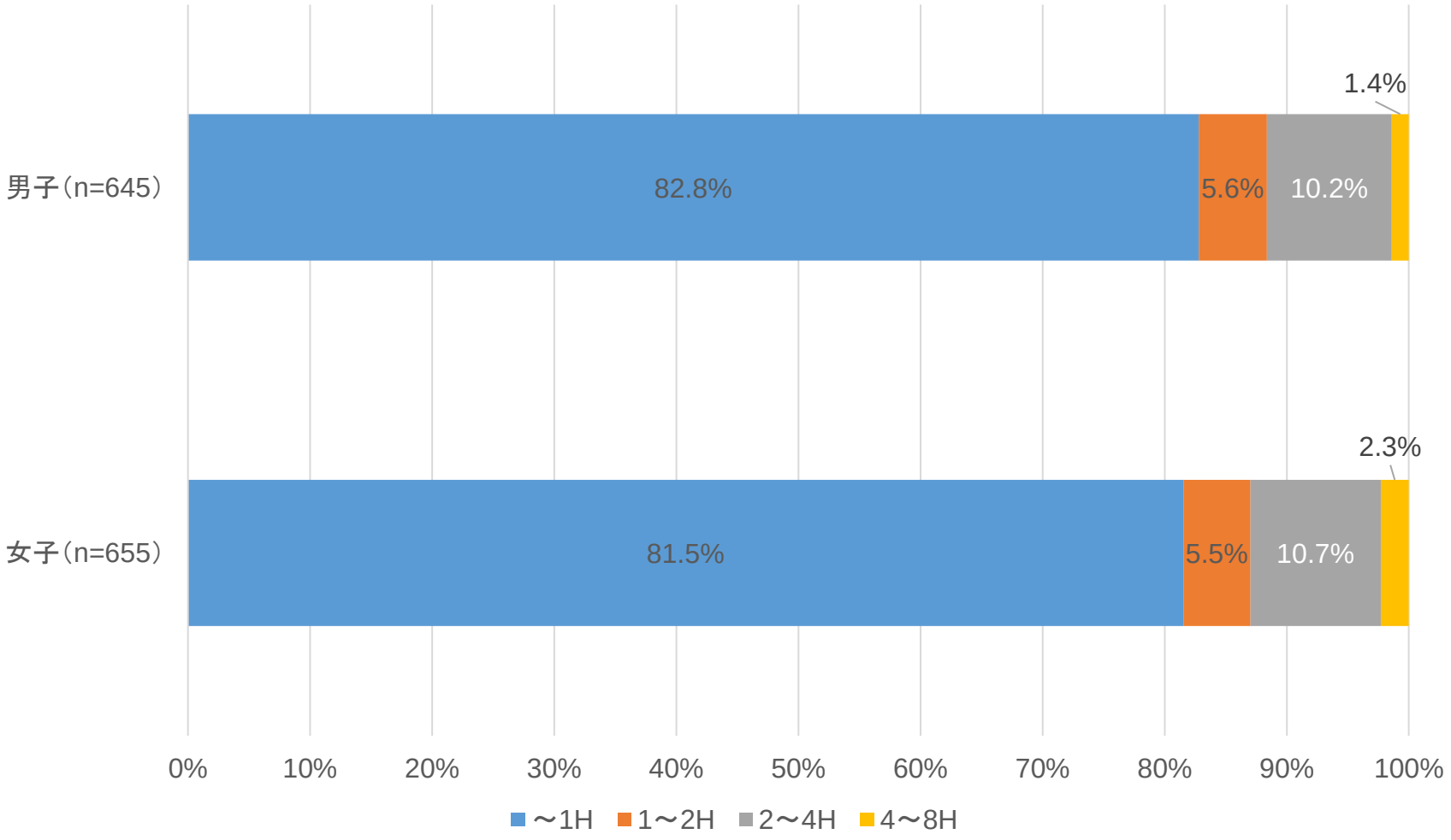
3-1-2.メディア接触の増加（学年別）



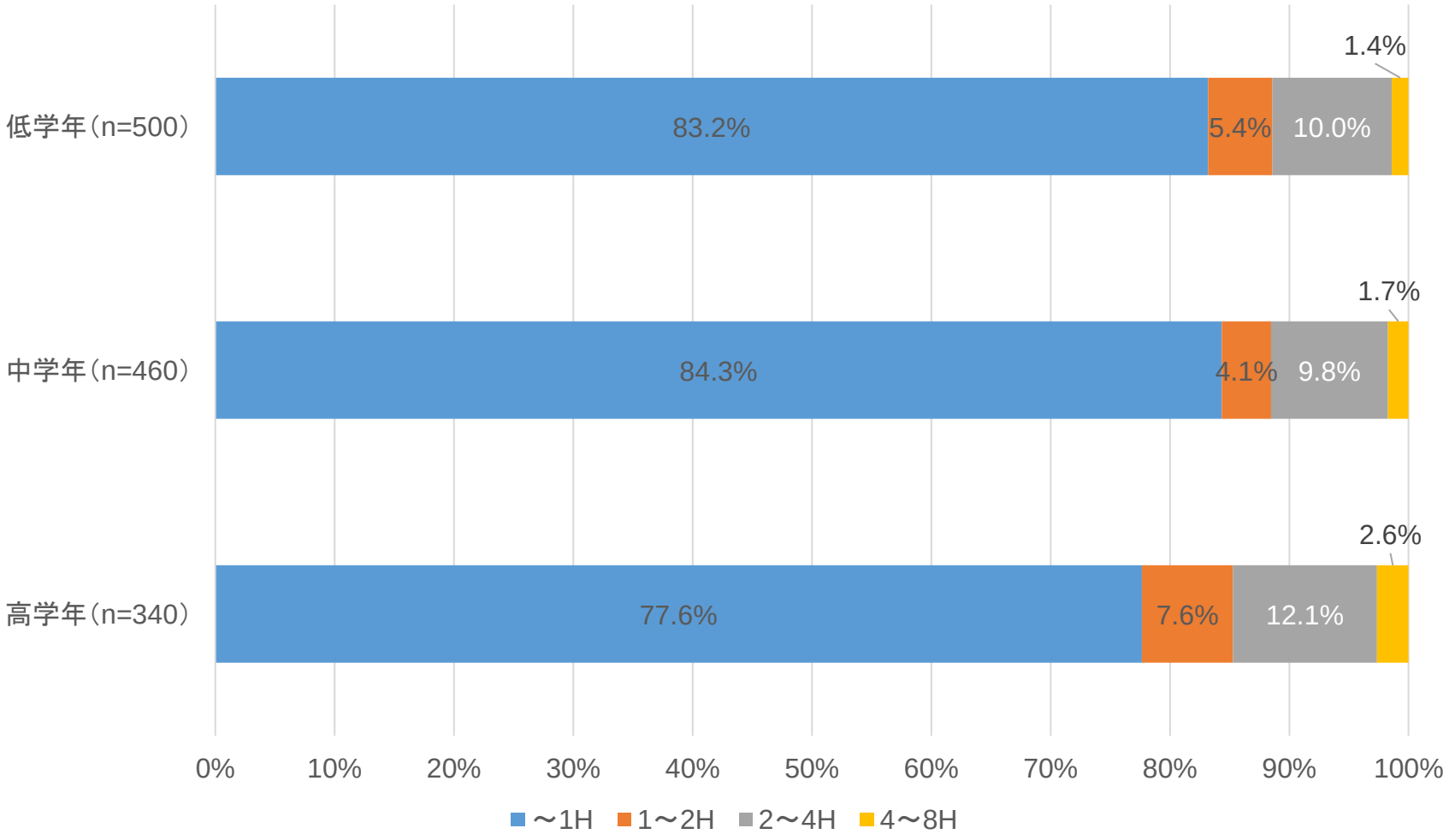
3-1-3. メディア接触の増加（居住地別）



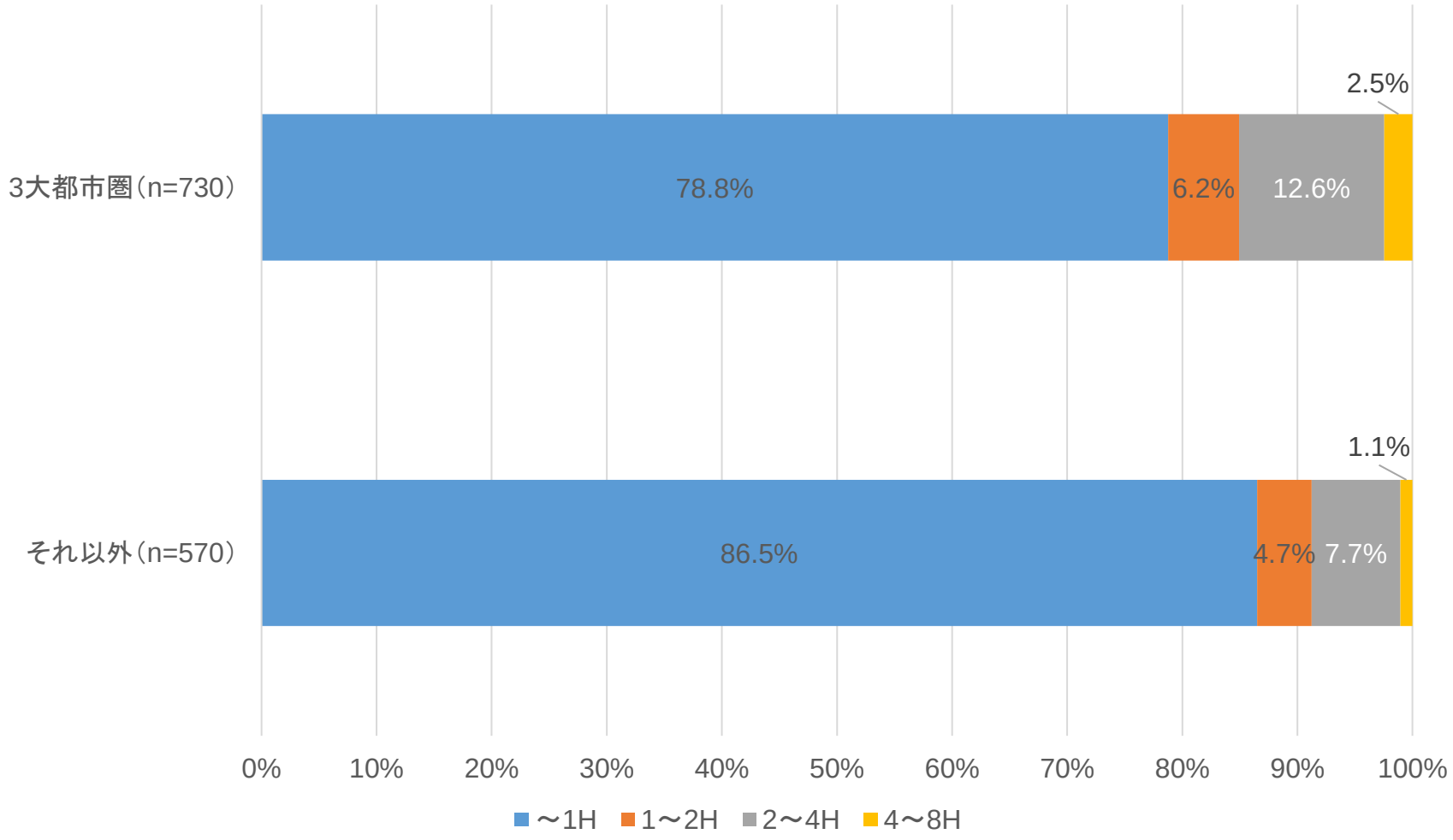
3-2-1.オンライン学習（性別）



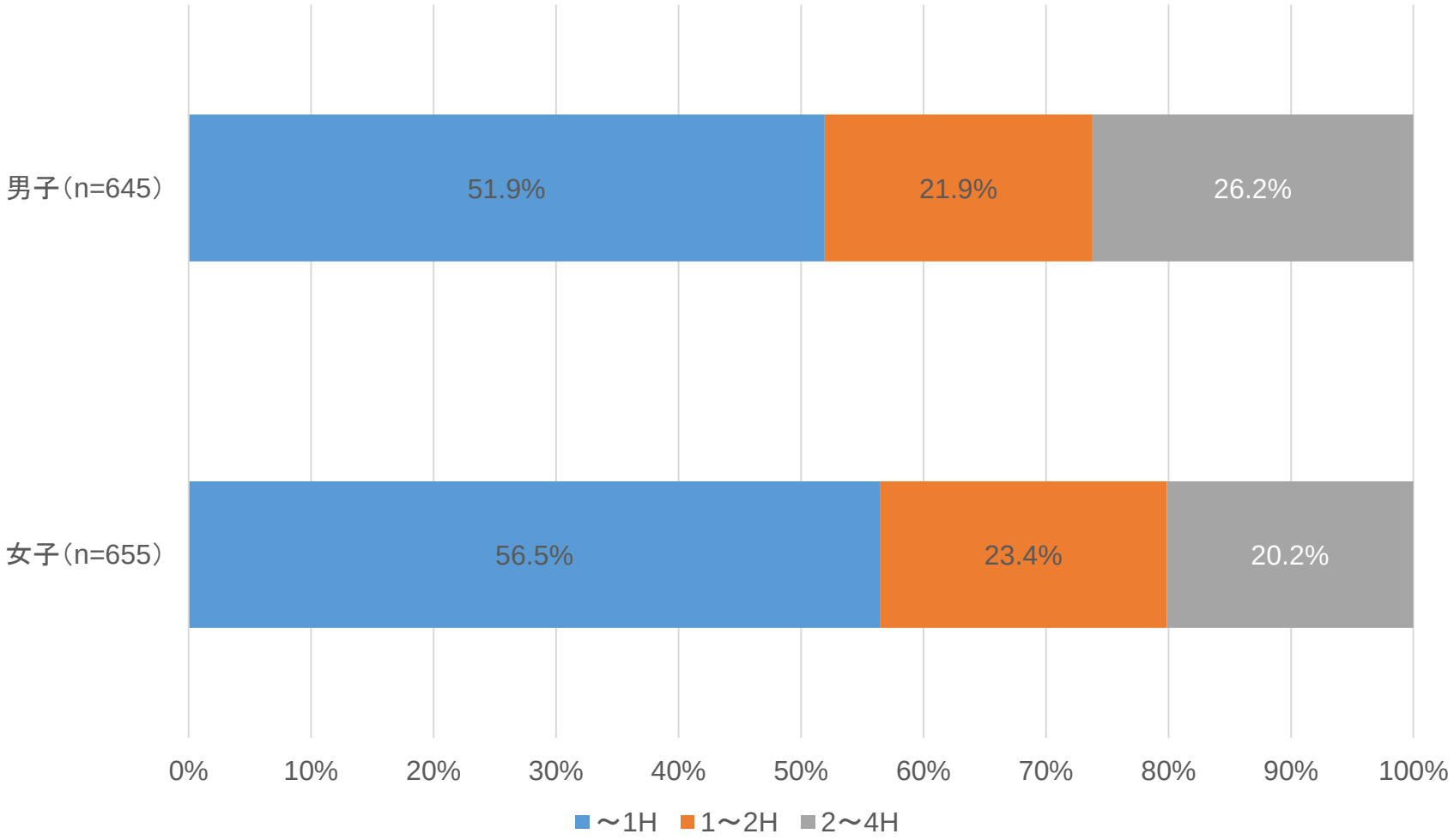
3-2-2.オンライン学習（学年別）



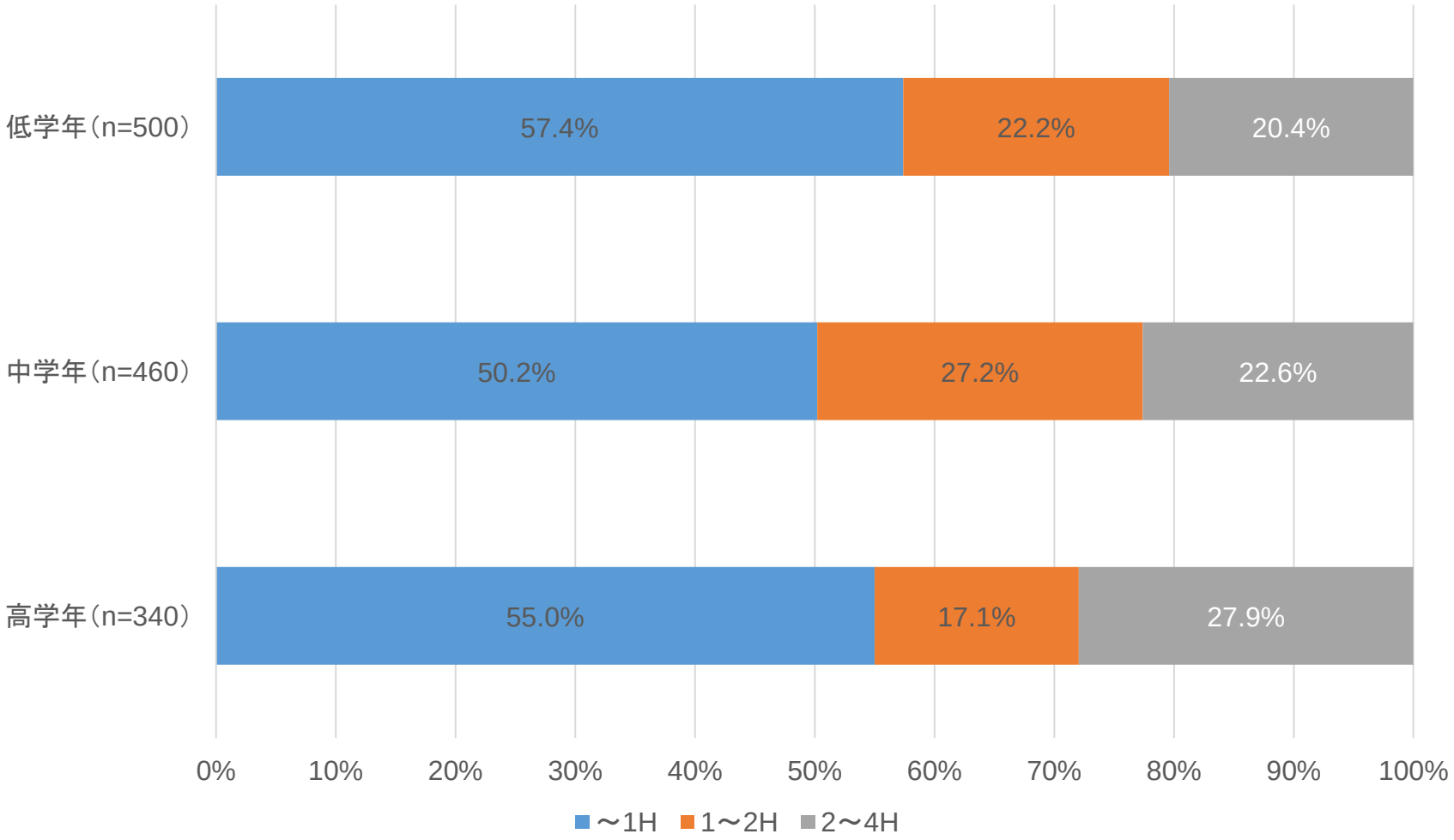
3-2-3.オンライン学習（居住地別）**



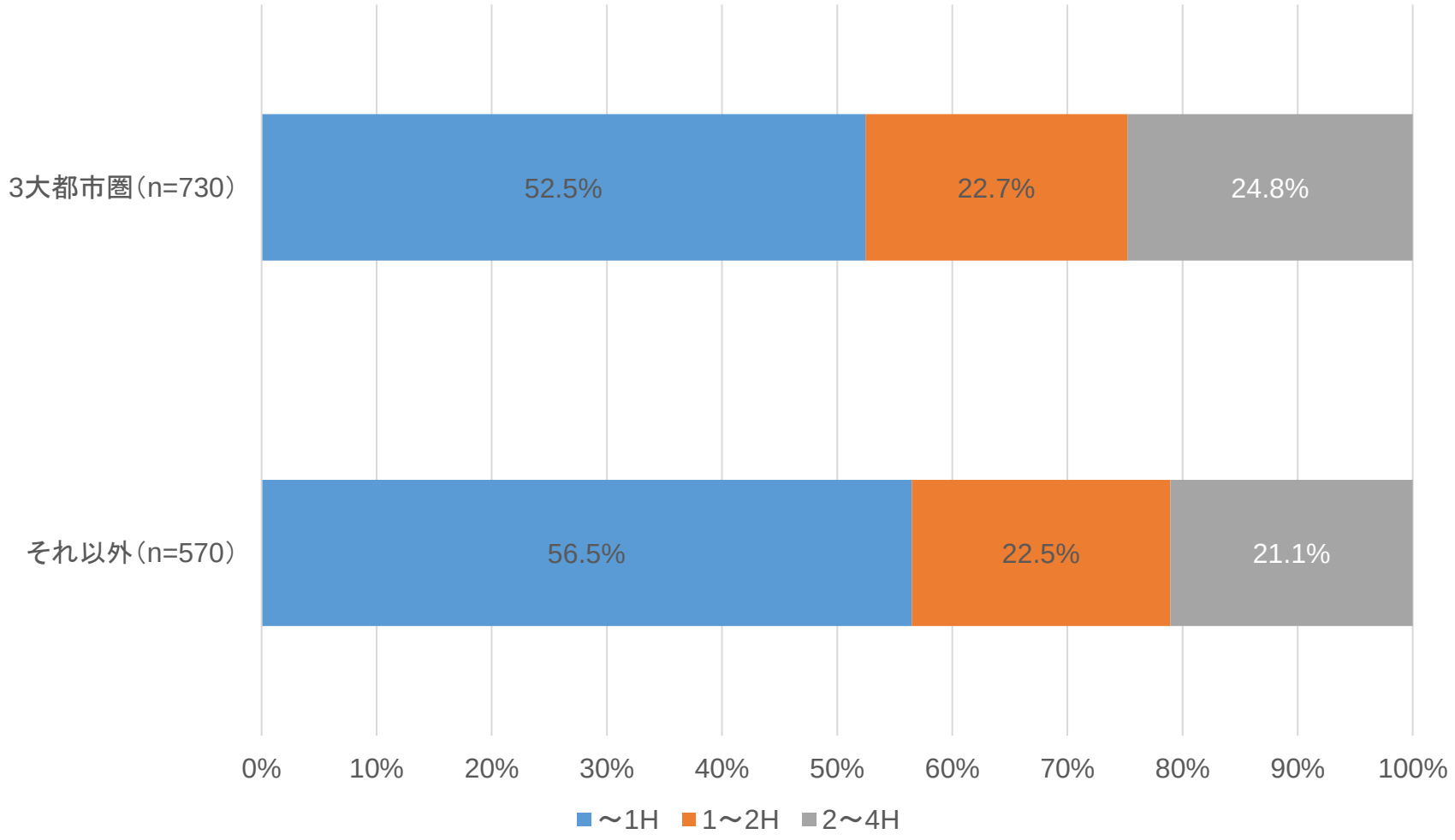
3-3-1.オンライン娯楽（性別）＊



3-3-2.オンライン娯楽（学年別）**



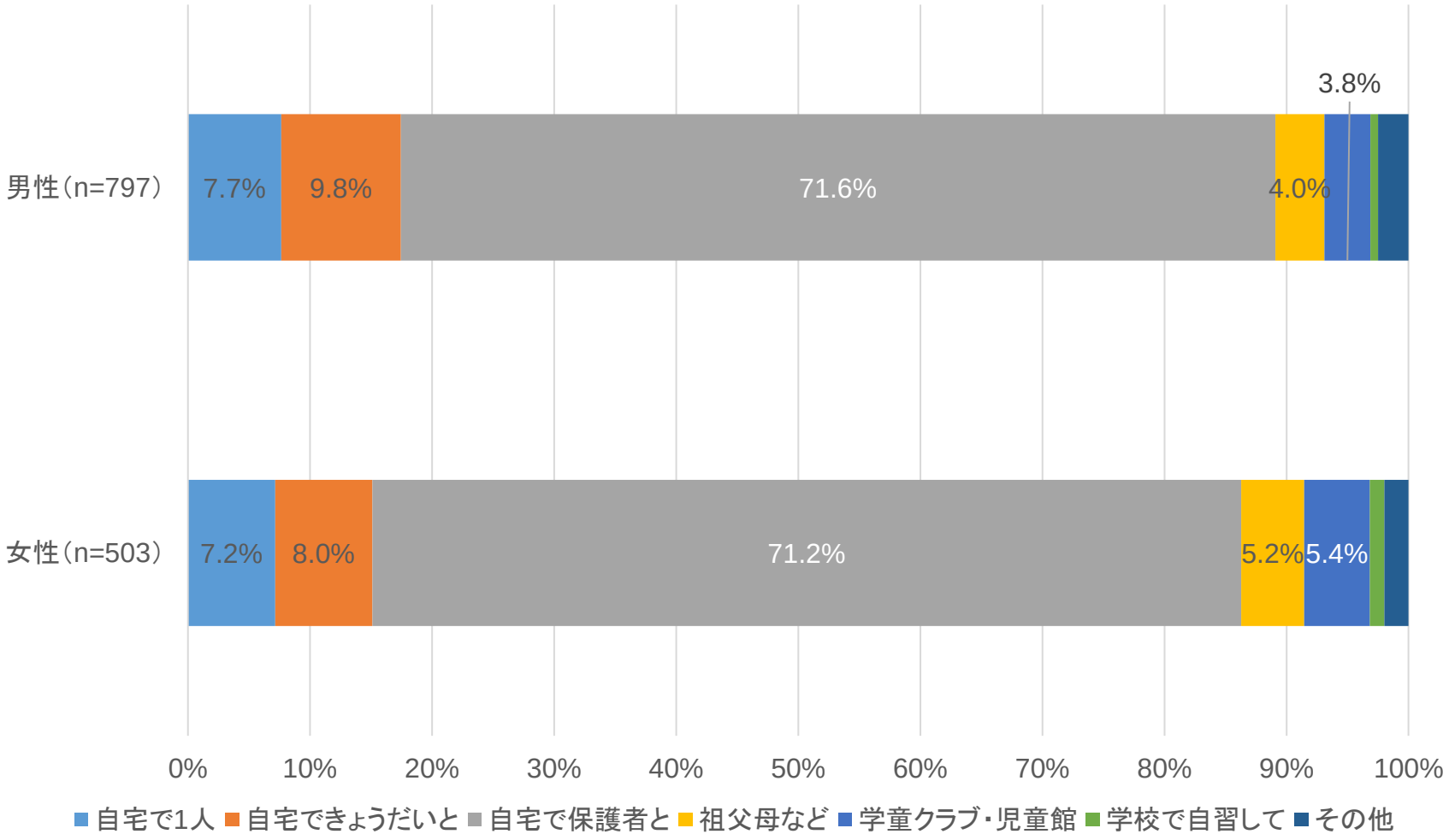
3-3-3.オンライン娯楽（居住地別）



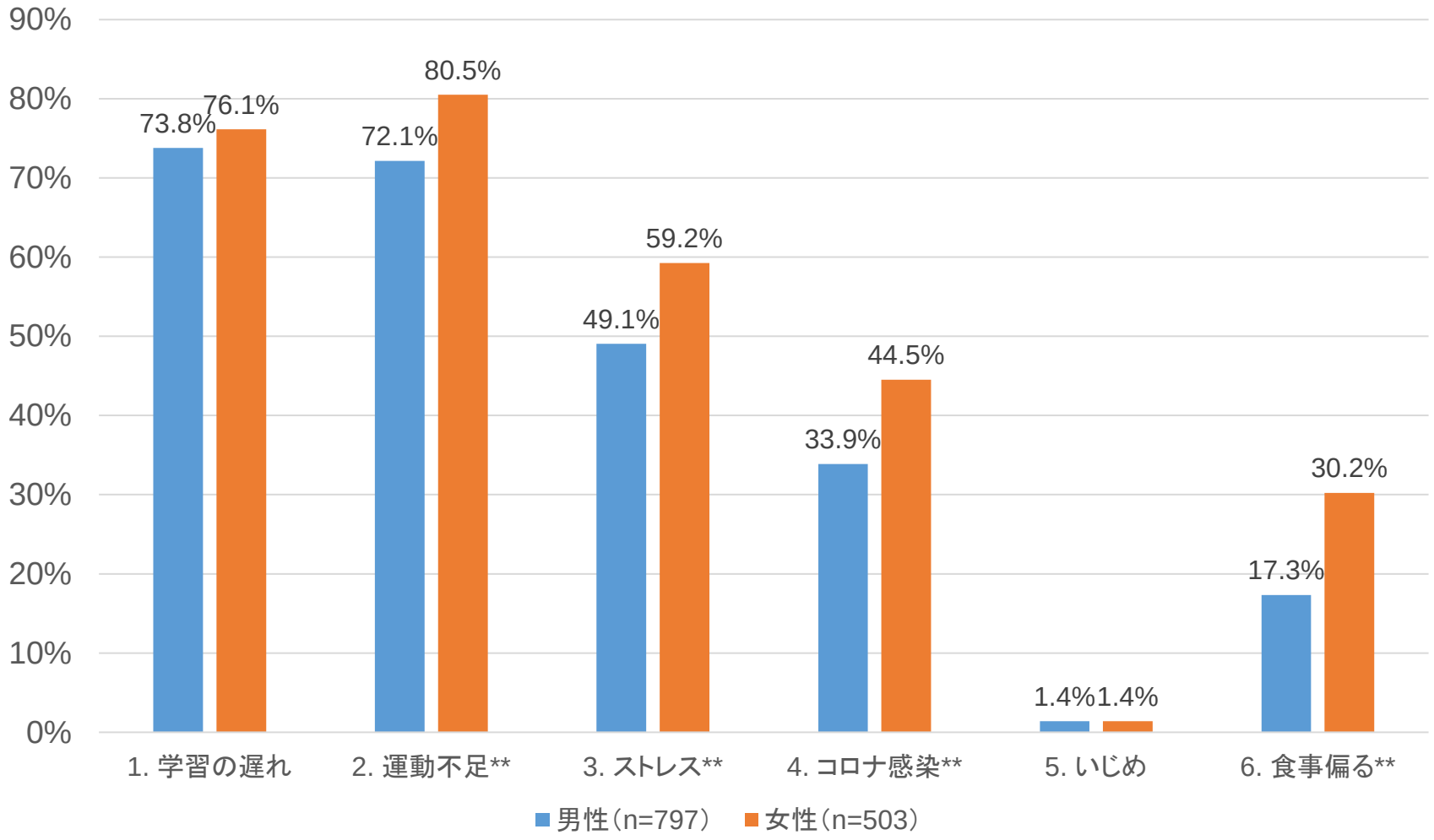
4. 回答者の属性による影響

- 今回は子どもではなく、保護者に答えてもらったので、回答者の属性による影響があるかもしれない
- 回答者が女性（≒母親）の場合と男性（≒父親）の場合では回答の傾向が異なるか
- 自宅にいて、子どもと接していたか否かも影響するかも

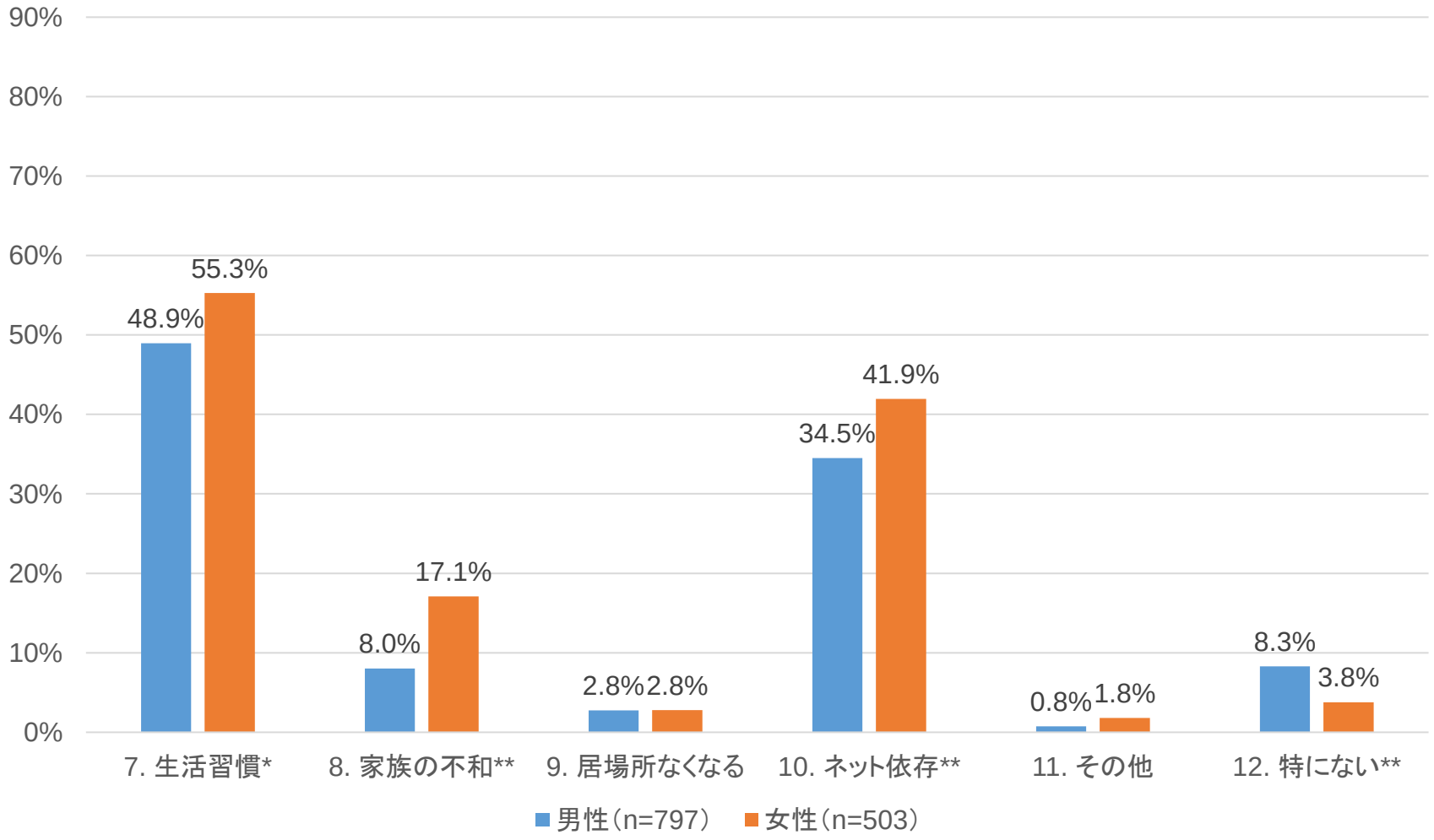
4-1. 休校中の日中の過ごし方（回答者性別）



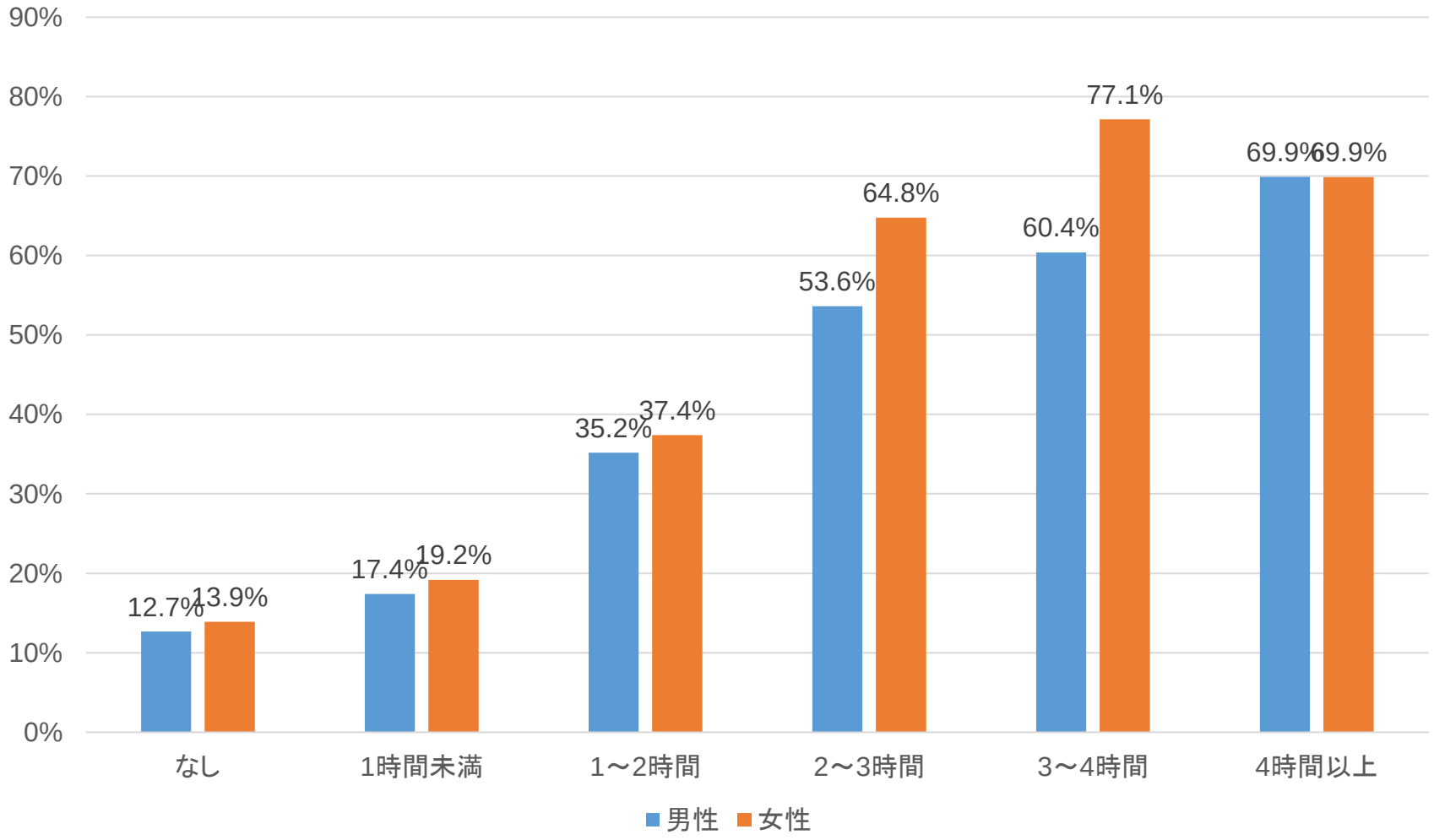
4-2. 困っていること・心配なこと（回答者性別）



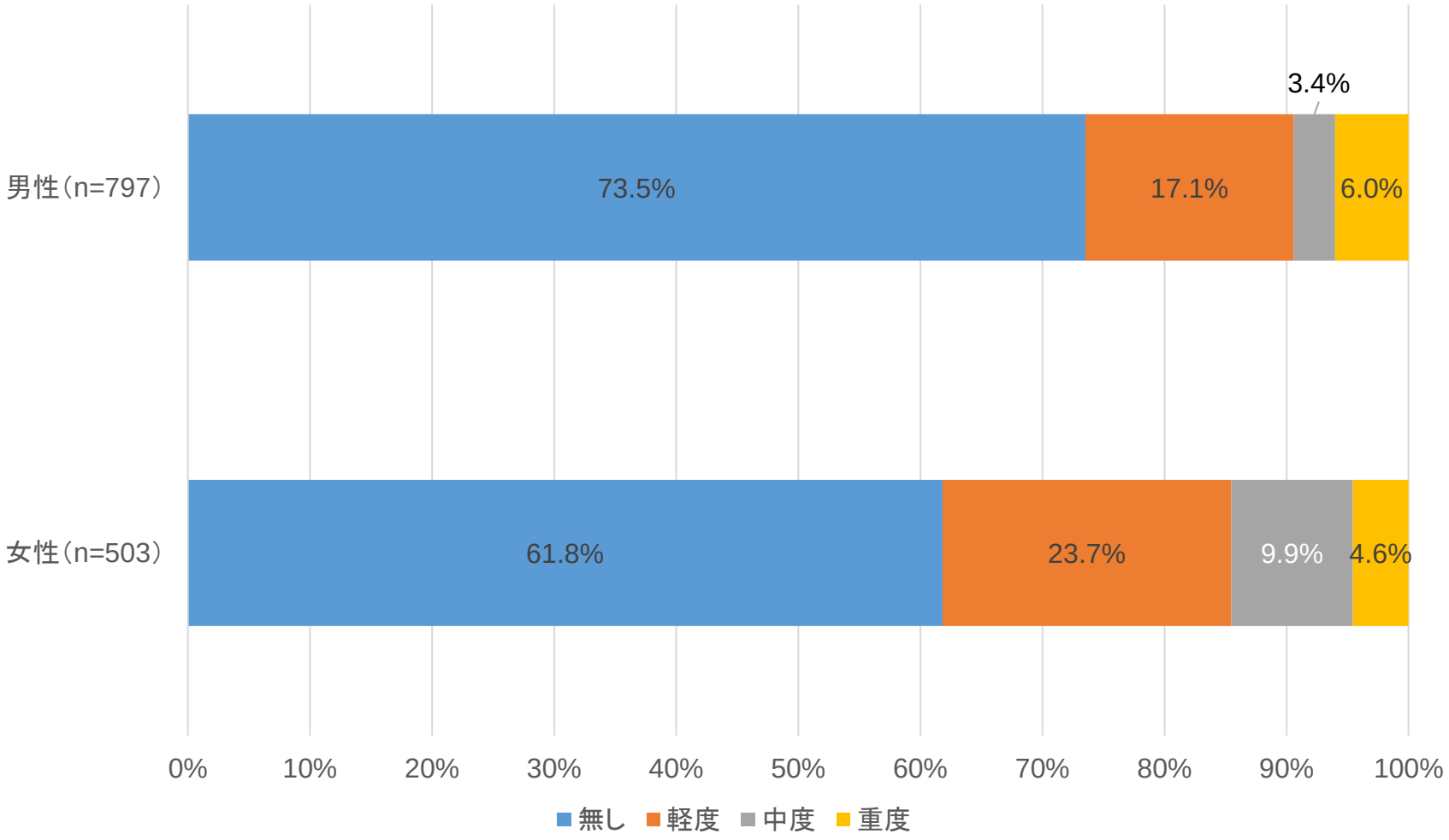
4-2. 困っていること・心配なこと（回答者性別）



4-2-1. 娯楽のための動画・ゲーム使用時間とネット依存の心配（回答者性別）



4-2-2. 疲労度（回答者性別）**



5. まとめ

- 男子も女子も同様に使っているが、男子の方が長時間使用になりがち
- 学年が上がると、メディア接触はやや有意に増え、オンライン娯楽の時間は有意に増える
- オンライン学習は都市部の方が多くなる傾向
- 保護者が女性の場合、男性よりも「心配だ」と答える傾向があり、その分「疲労度」も高くでる
- 使っているメディアは共通だとしても、社会の中で使われるので属性による違いはありうる

文献

樋口進, 2013, 『ネット依存症』, PHP新書.

――― , 2017, 『心と体を蝕む「ネット依存」から子どもたちをどう守るのか』, ミネルヴァ書房.

――― , 2018,『スマホゲーム依存症』, 内外出版社

伊藤賢一, 2020, 「高校生におけるネット依存とゲームのヘビーユーザーの実態 ― オンライン調査に基づいてー」『群馬大学社会情報学部研究論集』, 27巻, pp. 17-30.

小林桜児, 2016, 『人を信じられない病 ― 信頼障害としてのアディクション』, 日本評論社.

本調査の簡易報告書については、以下からダウンロード可：

・子どものネットリスク研究会

https://www.hiro-univ-netpat-otani.com/

・群馬大学社会情報学部・伊藤賢一のページ

http://www.si.gunma-u.ac.jp/~itoken/kaken2020.html

ご静聴ありがとうございました